

鉄筋コンクリート造の建物の耐力度簡略調査票

IV 学校種別	V 整理番号
---------	--------

(表面)

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	III 結果点数			
					調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	① 構造耐力	耐力度 ①×②×③
					予備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名	② 健全度	
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴	補修歴	③ 立地条件	点

A 構造耐力	① 保有耐力	(a) 水平耐力 q	階	方向	構造耐震指標 Is	$q_i = \frac{I_{si}}{0.9}$	$q = q_x \times q_y$	判別式	評点	評点合計			
			桁行方向 X	張間方向 Y					1.0 ≤ q		1.0	⑦	⑧ (⑦×70)
									0.5 < q < 1.0		直線補間		
	(b) コンクリート圧縮強度 k	設計基準強度		設計図書有り		設計図書無し		k = Fc/20	判別式	①	⑨ (0.3以下は、0.3とする)		
	Fc =	N/mm <sup>2</sup>	N/mm <sup>2</sup>	N/mm <sup>2</sup>	1.0 ≤ k	1.0	0.5 < k < 1.0	直線補間	k ≤ 0.5	0.5			
					評価	評点	⑩ (⑩×30)						
② 基礎構造 β	木杭	RC杭・ベデスタル杭	直接基礎・その他杭・不明		評価		評点	⑪	⑫ (⑫×30)	⑬ = (⑦×⑩)			
③ 地震による被災履歴 E	過去に経験した最大の被災度				無被害・被災無し		評価	評点	⑭	⑮			
	軽微	小破	中破	大破	1.0								

B 健全度	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t <sub>2</sub>	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	評点合計		
	② 鉄筋腐食度 F	部位	柱・梁	壁	床	各部位のランク値の最大	評価	評点	
		ランク					1.0 0.75 0.5	⑯ (⑯×25)	
	③ コンクリート中性化深さ a	a = 0.37√t =		判別式		評点	⑰ (⑰×20)		
				a ≤ 1.5cm	1.0	⑱ (⑱×5)			
				1.5cm < a < 3cm	直線補間				
④ 躯体の状態 D	部位	柱・梁	壁	床	各部位のランク値の最大	評価	評点		
	ランク					1.0 0.75 0.5	⑲ (⑲×25)		
⑤ 不同沈下量 φ	部位	内・外壁	基礎梁及び基礎立上り		各部位のランク値の最大	評価	評点		
	ランク					1.0 0.75 0.5	⑳ (⑳×5)		
⑥ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 S <sub>0</sub>	被災率 S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>	判別式	評点
	被災床面積 S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>	S <sub>3</sub>	S <sub>4</sub>				S = 0	1.0
								0 < S < 1	直線補間
評価後被災面積 S <sub>t</sub>	S <sub>t</sub> = S <sub>1</sub> + S <sub>2</sub> × 0.75 + S <sub>3</sub> × 0.5 + S <sub>4</sub> × 0.25 =				S = 1	0.5	㉑		

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価	評点
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	㉒ = $\frac{①+②+③+④+⑤}{5}$
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	崖地	0.9	
	二種地域	0.85	三種地盤	0.8	支持地盤が著しく傾斜した敷地	0.9	
一種地域	0.8		0.8	局所的な高台	0.9		

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は他の壁と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 平面図に、鉄筋腐食度の測定位置を記入する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

